

グローバル環境マネジメント

■ 環境経営推進体制

矢崎グループは、世界各地のステークホルダーの皆様からの環境保全に関する期待や要望に確実に対応するため、グローバルで環境マネジメント体制を構築し、運用しています。

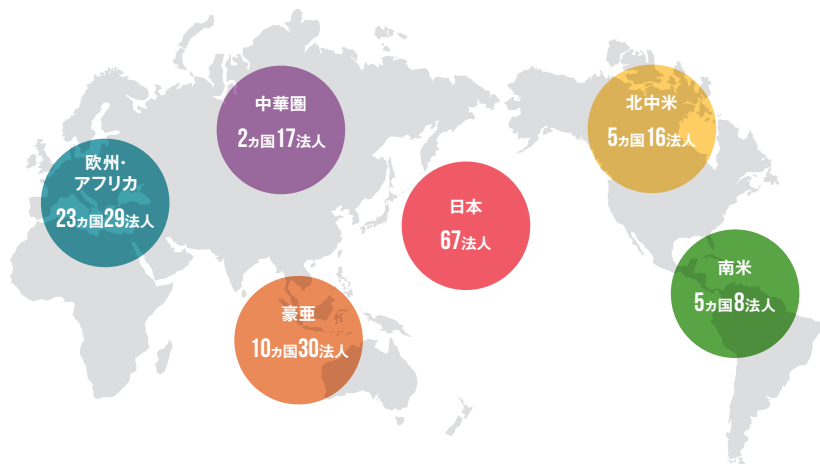
毎年4月には「矢崎環境委員会」を開催し、環境経営に関する意思決定機関として、国内外における課題について審議を行います。

矢崎環境委員会での審議事項は、「グローバル環境会議」で世界各地の環境責任者や環境実務担当者と共有し、課題解決に向けて整合しています。具体的には、各地域間の連携を図りながら、サプライチェーン全体での環境保全活動を

推進するために、気候変動の緩和や製品の化学物質管理など、グローバルで対処すべき重要テーマを共有し、その対応を協議しています。

また、矢崎グループでは各地域の法律や文化・慣習などを考慮した環境管理体制を構築しています。日本国内においては、各分野の課題や対応方針を検討するために「製品環境委員会」「工場環境委員会」「非生産環境委員会」を設け、全社的な取り組みを進めています。

世界各地における環境管理体制



各地域の環境委員会

地域	開催日
米州	2017年 8月15日~17日
欧州・アフリカ	1回目 2017年 11月22日
	2回目 2018年 5月8日~9日
中華圏	1回目 2017年 9月12日
	2回目 2018年 4月4日
豪亜	1回目 2017年 9月13日
	2回目 2018年 4月5日
日本	2018年 4月26日

TOPICS

米州環境会議で優秀事業所を表彰

米州環境会議では、環境保全に対する意識向上と取り組みの強化を図ることを目的として、毎年1回、環境保全活動において最も功績をあげた事業所に対し、表彰を行っています。2017年度は、排出物のリサイクル率向上と省エネルギー活動などにおける独自の優れた取り組みが評価され、グループ矢崎可変資本（メキシコ）のオブレゴン第2工場が最優秀賞を受賞しました。

この表彰制度の導入により、米州環境会議の管轄下

にある事業所では環境保全活動が地道ながらも着実に推進され、2017年度は、32拠点において最終埋立処分量ゼロを達成しました。



米州環境会議事務局メンバーと受賞者たち



■ グローバル環境監査

矢崎グループは、国内外の事業所においてISO14001認証に基づき、環境マネジメントシステムを運用しています。

また、法令遵守の徹底を図るため、国内の生産拠点、支店・オフィスおよび海外の生産拠点において定期的な環境監査を実施しています。2017年度は、米州38拠点、欧州・アフリカ19拠点、豪亜10拠点、中華圏3拠点、日本32拠点において実施しました。

この環境監査で確認された指摘事項と改善対応を各環境委員会で情報共有し、グローバルで改善活動につなげています。



環境監査の様子

■ 生物多様性保全の取り組み

私たちの暮らしは、多様な生きものが関わり合う生態系から得られる恵みによって支えられています。生物多様性を守り、持続的に利用していくことは、私たちだけでなく、将来世代のためにも必要です。1992年には地球サミット（ブラジル・リオデジャネイロ）にて「気候変動枠組条約」と「生物多様性条約」が締結され、また、2010年には第10回国連生物多様性条約締約国会議（COP10）にて、生物多様性の損失を止めるための共通目標である「愛知目標」や遺伝資源へのアクセスと利益配分を定めた「名古屋議定書」が採択されました。

矢崎グループではグローバルで生物多様性についての取り組みを共有し、地域の特性を考慮しながら活動しています。

■ 環境教育

環境保全について、自ら考え、行動できる人づくりをめざして、社内教育体系に基づき「全社共通教育」と「環境専門教育」を実施しています。

全社共通教育は、階層別昇格者や海外出向者を対象に、環境保全の重要性と矢崎グループが取り組んでいる環境保全活動の理解を目的に実施しています。

環境専門教育は、環境にかかわる専門的な業務を遂行できるスキル確保を目的として、環境業務の責任者および担当者を対象に環境法令教育やISO14001内部監査員教育などの教育を行っています。

環境教育受講者数

区分	対象	受講者(名)
全社共通教育	入社時共通教育	110
	新任リーダー勉強会	107
	新任責任者勉強会	31
	海外出向前研修	67
	小計	315
環境専門教育	化学物質管理担当者研修	8,478
	環境法令管理者・担当者研修	4,813
	ISO14001内部監査員教育	138
	小計	13,429
合計		13,744



環境教育の様子

TOPICS

生物多様性保全の取り組み

除草ボランティアへの参加

鳥取砂丘では1970年頃から外来植物が目立つようになり、砂の移動が減少して美しい風紋や砂簾が見られにくくなったり、砂丘本来の美しい景観を損ねたりするなど、砂丘の草原化が深刻な問題になっています。

鳥取部品（鳥取県東伯郡）では、「地域が取り組む環境保全活動や自然保護活動に積極的に参加する」という考えのもと、2005年から毎年30名以上の従業員と家族が、鳥取砂丘再生会議が主催する「鳥取砂丘ボランティア除草」に参加しています。2017年9月には47名が参加しました。

この活動が評価され、2017年には鳥取県より感謝状をいただきました。今後も、鳥取砂丘の保全に向けて活動を継続していきます。



参加者による集合写真



除草作業の様子

清掃美化活動とスズキの稚魚放流

YIC-APおよびTYL（タイ）では、毎年1回、全従業員を対象とした自然保護活動に参加しています。2018年6月には、チョンブリー県にあるSamae san島において海岸の清掃および稚魚放流を実施しました。当日、YIC-APおよびTYLの事業所から217名の従業員とその家族が参加し、250kgのゴミを回収したほか、スズキの稚魚450匹を放流しました。この活動を通して、生態系保全の重要性について従業員の認識が高まりました。



ゴミ拾いの様子



参加者による集合写真

地域社会とともに環境ボランティアを実施

自然の恵みを楽しみながら環境ボランティア活動をする矢厚会フォレストレーシング部（フォレスト+オリエンテーリングの造語）は、^{みさくぼ}浜松市水窪町で植樹や間伐を行い、健全な森の育成・保全に努めています。2017年度は、水窪町で古くから栽培されてきた「水窪じゃがた」と呼ばれるじゃがいもの植え付け・収穫を行い、地域の食文化に根付き愛されてきた在来種の保存や育成に貢献しました。



作業の様子